

【政治・経済】

～ClassPad.net のファイルふせん・手描き機能を活用する～

需要・供給曲線の仕組みと応用を理解する授業

需要・供給曲線を視覚的かつ実践的に確認する。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：需要・供給曲線の基本的構造や基本用語に加え、経済学と数学の関係性など、経済学が複合的な面をもっていることを理解させる。

生徒向けの目標：需要・供給曲線の基本的な考え方と仕組みを理解し、具体的な状況をグラフ上で表すことができるようにさせる。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・授業準備の時短／効率化：板書内容や宿題をすべてデジタルノート上に用意できるため、授業準備も進行も効率化できる。
- ・生徒の理解促進：ファイルふせんやリンクふせんを活用して各種資料を表示することで、ビジュアル的に理解を促すことが可能になる。
- ・協働学習促進：ふせんの同時編集機能や授業支援機能を活用することで、生徒によるグループワークを効果的にサポートできる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

【本日の授業の目標】

- ① 需要・供給曲線の基本的構造と、それに基づく市場メカニズムを理解する
- ② 具体的な状況を、需要・供給曲線を使って考察する

概要の説明

需要・供給曲線をもとに基本的な市場メカニズムを理解したあと、具体的な状況をグラフ上に適切に表現し、グラフから具体的な状況を適切に読み取れるようになることが授業の目標であると伝える。

step2

【基本的事項の確認①】

- ＜市場の動き＞
 - 市場・・・財やサービスの価格と取引量を決める場
 - 需要量・・・買い手が買いたいと思う量 → 需要曲線
 - 供給量・・・売り手が売りたいと思う量 → 供給曲線
 - 均衡価格・・・需要と供給が一致する市場上の価格
 - 市場価格・・・市場で実際に取引されているときの価格
→ 市場価格は均衡価格に近づく
- 市場メカニズム（市場の自動調整作用）
 - ・・・需要と供給の働きによって決められた財やサービスの価格に応じて、社会全体の生産や消費が調整される性質

基本的な事項の確認

「需要曲線」や「供給曲線」、「均衡価格」などの基礎用語の内容をもとに、「超過供給」「超過需要」を示す部分や各曲線のシフトが意味することなどの基本的な知識を確認する。

ファイルふせんなどを活用してシンプルな需要・供給曲線の図を提示し、手描き機能で書き込みながら説明する。

また、EX-word ふせんを使用して、用語の解説もあわせて行う。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step3

【グループワーク①】
〈手順〉
(1) グループに分かれる
(2) 各班で以下の課題に取り組む

【課題】
次の①～③の状況や変化を、需要・供給曲線を使ってグラフ上に表した場合、どのようなグラフになるか。

① 国際会議でマグロの漁獲制限が取り決められたため、マグロの漁獲量が減少した。
② 米の需要曲線と宝石の需要曲線



グループワーク①

複数のグループを作らせ、教師は各グループに課題内容を提示し、まずはグループ員各自で課題に取り組む。

〈課題内容〉

次の①～③の状況や変化をグラフ上に表した場合、どのようなグラフになるか。（徐々に難易度が上がる）

- ①：国際会議でマグロの漁獲制限が取り決められたため、マグロの漁獲量が減少した。
- ②：米の需要曲線と宝石の需要曲線。
- ③：政府が課税したことによる供給曲線の変化と、課税後に生産者が受け取る金額を示す部分。

グラフを作成するための雛形を Excel 等で作成してファイルふせんにしておき、授業支援機能を利用して全生徒に送信する。

また、課題が書かれたテキストふせんを電子黒板やプロジェクター等で投影し、全体に提示する。

生徒には、手描き機能を利用して、雛形のファイルふせんに課題の答えだと考えるグラフを書き込ませる。

step4

【グループワーク②】
〈作業開始〉
(1) 一人で①～③の課題に取り組む
(2) (1)で考えたグラフを、各グループ内で共有し、比較・検討したうえで一つの答えに絞る
(3) (2)で出た答えを提出する
〈条件〉
・Web検索は不可
・動画の使用は不可
・なぜそのようなグラフになったのかの理由

グループワーク②

step3 で各人が作成したグラフを、今度は各グループ員同士で共有し、比較・検討したうえで、グループとして一つの答えに絞らせる。

〈条件〉

- ・Web や教科書等の参照は一切不可
- ・そのようなグラフを書いた理由を明確にする。

step3 で各グループ員がグラフを書き込んだファイルふせんを、グループの代表者に授業支援機能で送信させ、同時編集機能でグループ員全員に確認し合わせる。

グループ内で一つに絞ったグラフを、最終的に教員に課題として提出してもらう。

step5

【発表】
(1) 各グループは、①～③のグラフを説明を交えて発表
(2) 発表を聞いた他のグループは、そのグラフに対する意見を述べる
(3) すべてのグループの発表が終了したら答え合わせをする

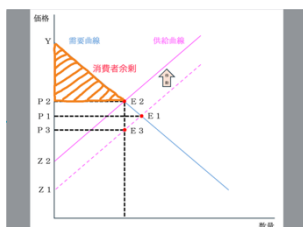
内容共有・答え合わせ

各グループが話し合っ一つに絞ったグラフを全員に共有・提示して、全体で比較・検討させたうえで答えのグラフを提示する。

課題の提出状況一覧画面を電子黒板やプロジェクター等で投影しながら、必要に応じて手描き機能を使用してポイントを解説する。

step6

【まとめ・宿題①】
〈発展〉
○消費者余剰・・・消費者が払ってもいいと考える金額から、その商品の価格を差し引いたもの
→ 消費者が得をする部分の面積
○生産者余剰・・・生産者が売ってもいいと考える金額から、その商品の価格を差し引いたもの
→ 生産者が得をする部分の面積



まとめ・宿題

step3 の③のグラフを活用し、「消費者余剰」や「生産者余剰」などの発展的な項目の解説を行う。

また、宿題として「労働市場における需要・供給曲線の変化」をまとめてくるよう伝える

宿題は、内容が記載されたフォーマットを Word 等を利用して作成しておき、ファイルふせんにして、授業支援機能を用いて生徒に送信する。

この際、step3 で配布した雛形のグラフを合わせて配布する。

また、参考として以下のようなサイトの URL を貼り付けたリンクふせんを紹介する。

「JOGMEC 金属資源情報」より

(https://mric.jogmec.go.jp/public/report/2005-10/mineral_eco_04.pdf)

step7

【参考・補足①】
○ローレンツ曲線・・・所得の低い世帯から高い世帯に順番に並べたときの、所得の累積比率を示した曲線
○ジニ係数・・・ローレンツ曲線をもとに、0～1の数値で算出される係数

Q. これらの曲線や係数は、何を意味し、どのようなことに活用されているのか。

参考・補足

「ローレンツ曲線」や「ジニ係数」に関する参考・補足を加え、数学的側面の伝達に加え、実際にどのようなことに応用されているのかについて考察させる。

参考として、以下のような解説ページの URL を貼り付けたリンクふせんを紹介する。

「富山県ホームページ内『経済指標の見方・使い方<H17.6>」より

(https://cigs.canon/article/uploads/pdf/workingpapers/141226_inaba.pdf)